

道産米うれしい善意

北紘建設が 2トンを寄贈

【伊達】市内の北紘建設が21日、市内保育所や福祉施設向けに伊達産新米「ゆめびりか」を寄贈した。笹山陽子社長が市役所で堀井敬太市長に目録を手渡した。

同社が2005年から続ける社会貢献活動で、今年も20年目に当たるため米は例年の2倍の2トンを寄贈。8保育所と、グループホームや障害福祉サービス事業所、地域食堂など15カ所に届けられる。笹山社長は「保育所の子供たちからお礼の電話



堀井敬太市長に伊達産米の目録を手渡す笹山陽子社長（左）

をもらうこともある。心待ちにしている人のために続けていきたい」と話した。同社は市内の農業用排水路周辺で草刈りも行っており、合わせて市から感謝状を贈られた。
(足利直哉)

北洋銀行は 養護施設に

北洋銀行は道産農畜産物の消費拡大に向けた取り組みの一環で22日、室蘭市の社会福祉法人「室蘭言泉学園」が運営する児童養護施設「わかすぎ学園」（母恋南町）に道産米50キロを贈った。

室蘭中央支店の赤保内伸幸支店長が同学園を訪れ、5キロ入りの「ななつぼし」10袋を同学園の磯山恵美課長に手渡した。磯山課長は「物価高騰で大変な中、コメはとてもありがたい」とお礼を述べ、施設に住む子どもたちが感謝のメッセージを書きした色紙を贈った。赤保内支店長は「子どもたちが道産米を口にし

わかすぎ学園の磯山課長（左）に新米を手渡す北洋銀行室蘭中央支店の赤保内支店長



てすくすく成長してほしい」と話した。同行は12月にも同学園に道産米粉のパウムクーヘン10箱を贈る。
(村上真緒)